

“ヒトがオモテ”の倭ヶ浦半島未来計画

平成 29 年 3 月



倭ヶ浦半島

“ヒトがオモテ”の俵ヶ浦半島未来計画 目次

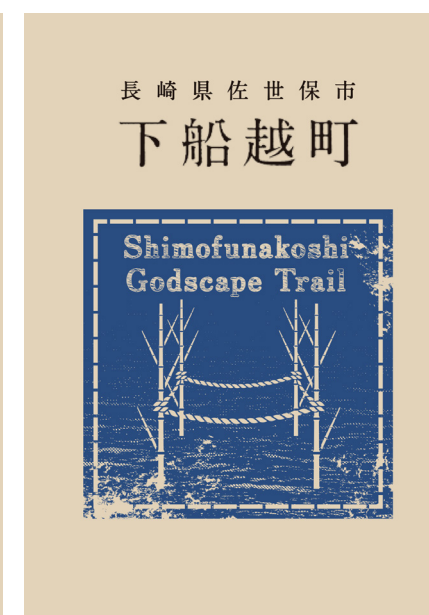
01	はじめに ～俵ヶ浦半島未来計画とは～	
	1－1．俵ヶ浦半島活性化への背景	01
	1－2．俵ヶ浦半島未来計画の全体像	02
02	地域の現状把握と課題の整理	
	2－1．俵ヶ浦半島の課題とその背景	03
03	俵ヶ浦半島の未来予想図	
	3－1．俵ヶ浦半島でつないでいきたいもの①「ヒト」 一半島スローガン	04
	3－2．俵ヶ浦半島でつないでいきたいもの②「文化」 一半島マーク	05
	3－3．俵ヶ浦半島の未来予想図一半島未来マップ	06
	3－4．未来予想図を実現するための目標	08
04	俵ヶ浦半島活性化アクションプラン	
	4－1．目標を達成するための取り組みフロー、事業アイデア	09
	4－2．目標を達成するための推進体制ーチーム俵	10
	4－3．チーム俵の事業計画「部活動」ネットワーク会議、ご当地部	11
	4－4．チーム俵の事業計画「部活動」トレイル部、住まい部	12
	4－5．チーム俵の事業計画「部活動」学校部、宣伝部	13
	4－6．部活動3カ年スケジュール（案）	14
コラム	つくも苑跡地活用と未来計画について	15

全てはトレイルづくりから始まりました。

平成 25～27 年度にかけて、(公財)佐世保コンベンション協会の主催、九州大学景観研究室による協力のもと、俵ヶ浦町 (H25 年度)、庵浦町 (H26 年度)、野崎町・下船越町 (H27 年度) がトレイルコースづくりに着手しました。

最初は半信半疑のスタートでしたが、地元の人みんなで一緒に考えて、地元の人みんなで一緒に汗をかいて、足元にある豊かな風景・地域資源を改めて再発見するとともに、少子高齢化や空き家対策、学校の統廃合、伝統・祭りの継承など、地域の課題に向き合う機会ともなりました。

俵ヶ浦半島活性化は、トレイルづくりから始まったのです。



3年間で作成した4つのトレイルコース

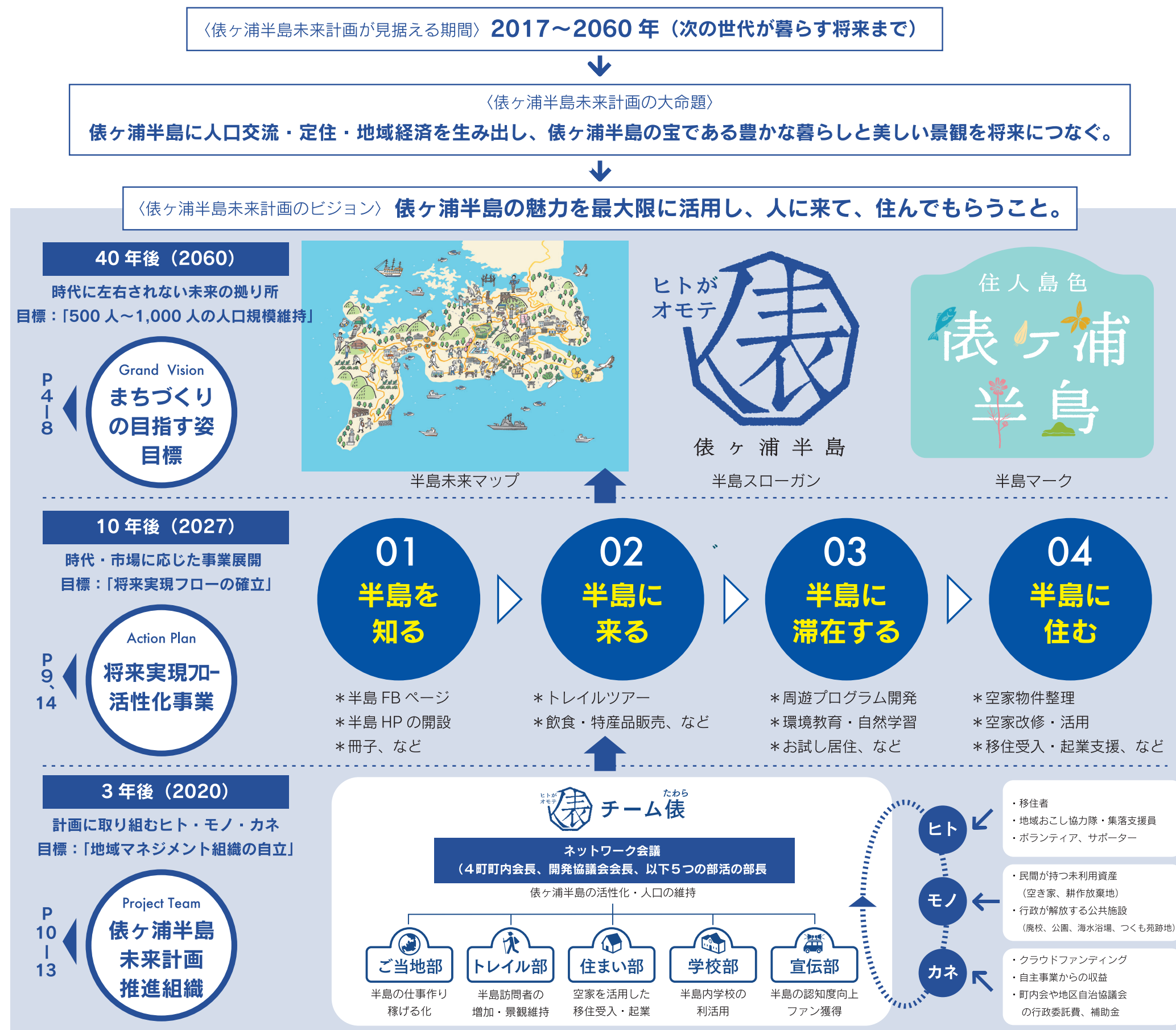
豊かな暮らしをつなぐ 住民主体による俵ヶ浦 半島のまちづくり計画

3年間のトレイル事業の成果をもとに、平成28年度からは俵ヶ浦半島の活性化に向けて住民参加型で「俵ヶ浦半島未来計画」づくりに着手しました。

この未来計画の作成にあたっては、半島内の4町の出事や会合で、住民が日頃抱えている困り事や関心事、将来の事を聞きながら、半島の現状・課題を把握しました。また、4町住民総出による「俵ヶ浦半島ミーティング」を3回開催し、俵ヶ浦半島の魅力、10年後の将来ビジョンや目標、未来を実現するための事業計画や組織づくりなどを語りました。

この未来計画は、スローガン「ヒトがオモテ」が象徴するように、「俵ヶ浦半島の住民の手で生まれた」まちづくりの道標です。

人や経済が流入することで地域内交流・経済が生まれ、半島の宝である美しい暮らしや豊かな暮らしを守っていく。その目的を忘れずに、時代に左右されないまちづくりの目指す姿と時代・市場に応じた事業、地域住民主体の推進体制を掛け合わせることで、俵ヶ浦半島独自のまちづくりが実現します。



約10箇所の出事・会合に参加して聞き取り調査を実施

庵浦

村祈祷直会

日程／H28.5.15
参加／村祈祷参加者



野崎

関係団体
ヒアリング

日程／H28.5.18
参加／主要団体代表者



俵ヶ浦

関係団体
ヒアリング

日程／H28.5.28
参加／主要団体代表者



下船越

関係団体
ヒアリング

日程／H28.5.28
参加／主要団体代表者



俵ヶ浦
野崎

俵浦小学校
運動会直会

日程／H28.5.29
参加／PTA ほか



庵浦

庵浦小学校
運動会直会

日程／H28.5.29
参加／PTA ほか



庵浦
俵ヶ浦
野崎

消防分団
ヒアリング

日程／H28.6.19
参加／3町消防分団



地域住民への聞き取り調査から出た主な課題

《半島の今（困っている・関心がある・大切なこと）》

下船越

- ・ 1次産業の衰退
- ・ イノシシの問題
- ・ 展海峰の集客・売店
- ・ 買物の不便さ
- ・ 子供の教育・通学
- ・ 若い世代の人材不足
- ・ 高齢化・老後の問題
- ・ 市街化調整区域問題
- ・ 耕作放棄地の対応
- ・ 地域の出事の負担
- ・ 豊かな自然・景観
- ・ 路線バスの不便
- ・ 米軍住宅、企業交流
- ・ 地域仲が良い、等

庵浦

- ・ 庵浦小学校の廃校
- ・ 運動会の継続
- ・ 合併後の通学手段
- ・ 村祈祷・行事の継承
- ・ 女性の住みづらさ
- ・ 地域の仕事・雇用
- ・ 買物の不便さ
- ・ 今は魚が釣れない
- ・ 少子高齢化の問題
- ・ 市街化調整区域問題
- ・ トレイルの活用
- ・ つくも苑跡地の問題
- ・ 子育て環境の改善
- ・ 米軍との関係性、等

野崎

- ・ 野崎中学校の廃校
- ・ 地元管理・活用
- ・ 少人数の教育問題
- ・ 市街化調整区域問題
- ・ 独身男性の結婚問題
- ・ 高齢者・通院利便性
- ・ 地域の出事の負担
- ・ 郷土食の継承
- ・ イノシシの問題
- ・ 展海峰の直売所
- ・ 地域雇用、所得改善
- ・ 耕作放棄地の問題
- ・ 1次産業の衰退
- ・ トレイルの管理、等

俵ヶ浦

俵浦小学校の
主な意見は、
ここに集約。

- ・ 俵浦小学校の廃校
- ・ 育友会・交流の継続
- ・ 移住への課題解消
- ・ 交通利便性の問題
- ・ 地域の高齢化
- ・ 白浜海水浴場の管理
- ・ 郷土料理の継承
- ・ 展海峰の売店
- ・ 地域雇用、所得改善
- ・ 少人数の教育問題
- ・ 子供の遊び場
- ・ 1次産業の衰退
- ・ 耕作放棄地の問題
- ・ 買物の不便さ（閉店）
- ・ 樹木の伐採・管理
- ・ トレイルの効果

トレイルをきっかけに向き合うこととなった地域の課題を掘り下げることから、今回の計画づくりはスタートしました。

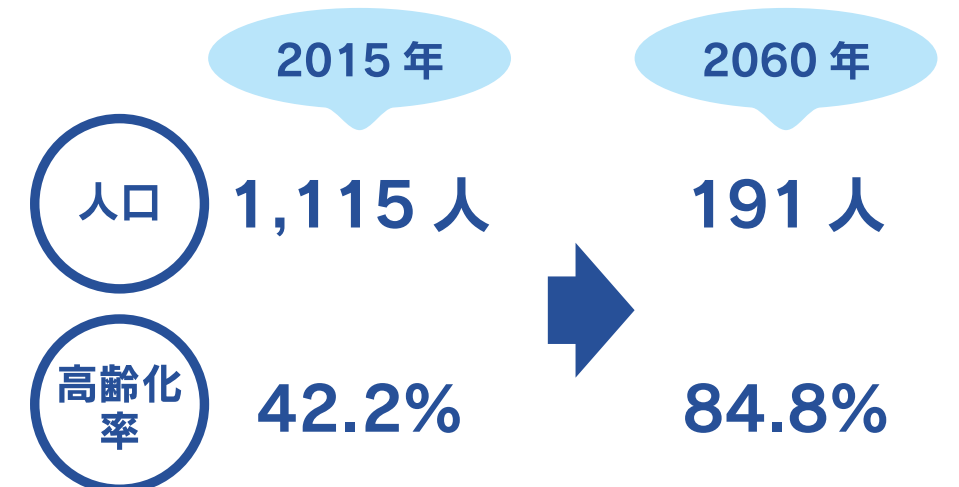
そのために、地域の行事や出事、会合に参加し、延べ100名以上に及ぶ地域住民同士の対話、ヒアリングを経て、半島の現状や困りごと、関心があること、大切なことを集約することにしました。

地域住民皆が気になっているのは、ここ数年で閉校の決まった3つの学校のこと。また、地域の行事の存続が困難となってきたことや増え続ける耕作放棄地、路線バスの減少、日常の買い物の困難さなど、出された多様な意見は総じて半島から人が減っていることに起因するものでした。

20年前に1,800人程度だった半島の人口は、現在1,100人程度にまで減少。このままのペースが続いた場合、40年後には人口は200人を切り、高齢者の割合も現在の倍の85%に迫ります。私たちは、この現実に向き合いながらも、将来の夢を語りながら、楽しく半島を次の世代につないでいく決意を新たにしました。

俵ヶ浦半島の課題は
「人口減少」

このままのペースが続けば、
2060年には1/5以下の人口に。



※H22,H27 国勢調査人口データをもとに、コーホート変化率法により佐世保市企画部で推計

半島のスローガンは「ヒトがオモテ」

平成28年8月、4町住民参加のもとで、第1回俵ヶ浦半島ミーティングを開催。

「10年後、どんな俵ヶ浦半島にしたいですか」参加した約50名の住民が10年後の未来の姿や未来のためにやりたいことを語りました。

その中で出た意見をもとに出されたキーワードの数を文字の大きさで反映させ関係性を整理した「10年後の未来キーワード」図を作成しました。

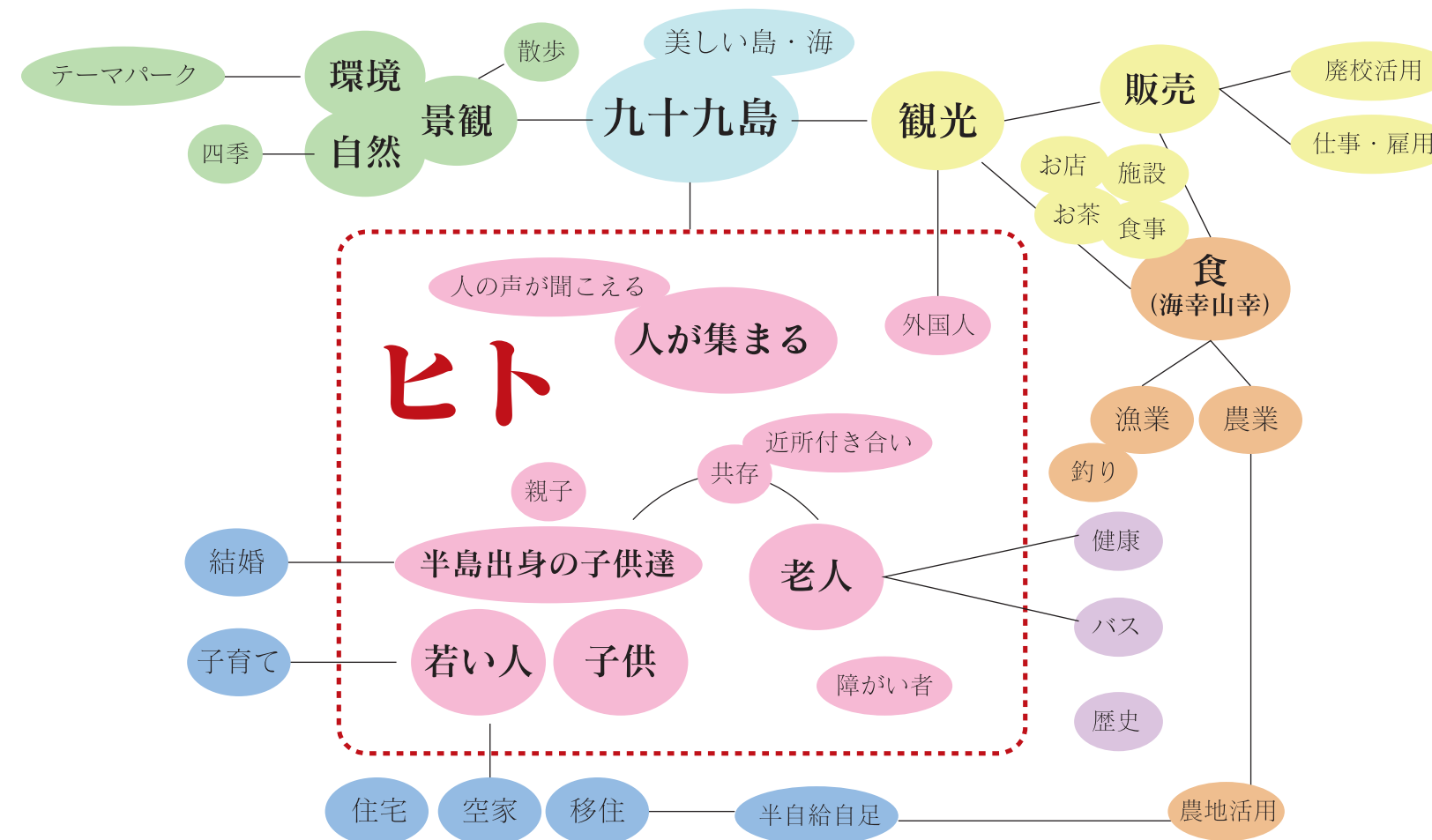
「若い人、子供達にきて、住んで欲しい」

「生涯元気に健康で暮らせる街」

「外国人や障がい者に優しい街」…

この図をみると改めて、俵ヶ浦半島住民の多くの方々の心の中には「ヒト」がいて、仲の良い人間関係やコミュニティが半島の自慢であり、残したい大切なものであることがわかりました。

この結果を踏まえ、俵ヶ浦半島の未来を語るキーワードを「人が主役のまちづくり」とし、俵ヶ浦半島の「俵」の漢字を活用して半島のまちづくりスローガンを「ヒトがオモテ」に決定し、スローガンロゴを作成しました。



第1回俵ヶ浦半島ミーティングにおける「10年後の未来」キーワード



〈俵ヶ浦半島の未来を語るキーワード〉

「人が主役」のまちづくり

個性が生き、多様な暮らし・共存できるのが願い。

(若い人、子供達に住んで欲しい、老人が元気、観光客にきてもらいたい、など)



大切にするまちづくりの理念

〈俵ヶ浦半島未来計画のまちづくりスローガン〉

ヒトがオモテ

俵ヶ浦半島の「俵」という漢字を活用し、「人が主役の島」であることを伝える。



俵ヶ浦半島

△俵ヶ浦半島スローガンロゴ

半島の魅力は、景観、自然環境、食、歴史

第1回俵ヶ浦半島ミーティングにおいて俵ヶ浦半島の未来を語るとき、地域住民は俵ヶ浦半島ならではの資源・魅力を守り活かした活性化を求めていることがわかりました。

その半島の魅力の源として、多くの人達の中心には「九十九島」の存在があります。その九十九島の恩恵を受けた「景観」「自然環境」そして海と山の豊富な「食材・食文化」、お祭りや歴史遺産による「歴史」の4つが、俵ヶ浦半島の活性化に残し活かすべき魅力だと言えます。

この多様で多彩な半島固有の魅力文化を象徴するものとして、「住人島色」をテーマとしたマークを作成しました。



俵ヶ浦半島未来マップ

半島住民が俵ヶ浦半島でつないでいきたいと評価した「ヒト」と「文化」そして半島で実現したい多くの夢をもとに、私たちの目指す俵ヶ浦半島の未来を描いてみました。





40年後の目標

半島ファンを増やし、 豊かな人々の暮らし、 景観を次代に繋ぐこと

半島の未来予想図（P6）を実現するための俵ヶ浦半島活性化の1丁目1番地は、「人に来てもらう、住んでもらうこと」。

人と経済の流入によって俵ヶ浦半島に人口交流、定住、地域経済の波が生まれることで、俵ヶ浦半島が大切にしたい美しい景観や豊かな暮らしが後世へと繋がっていくのです。

半島の人口推計によれば、何もチャレンジをしなければ40年後には人口は今の1/5になり、5人に4人以上が高齢者のまちなります。しかし、地域住民が力をあわせて半島にとどまる人を増やし、新たに住む人を受け入れることで、その流れを食い止めることもできます。若年層・子育て世代を年間6～12世帯留める、受け入れることでコミュニティの維持の1つの目安となる500人～1,000人の人口規模と現在と同レベル以上の世代のバランスを保つことが可能です。1人ずつ、1世帯ずつ半島ファンを増やすことが希望のある未来への近道です。

そのためには、他の地域と差別化を図り、「景観」「自然環境」「食」「歴史」による俵ヶ浦半島独自の魅力を活用した事業を進めていくことが不可欠です。

※国土交通省「サービス施設の立地する確率が50%及び80%となる自治体の人口規模」

「ヒトがオモテ」



「景観、自然環境、食、歴史」



〈私たちが目指す40年後の俵ヶ浦半島活性化の大命題〉

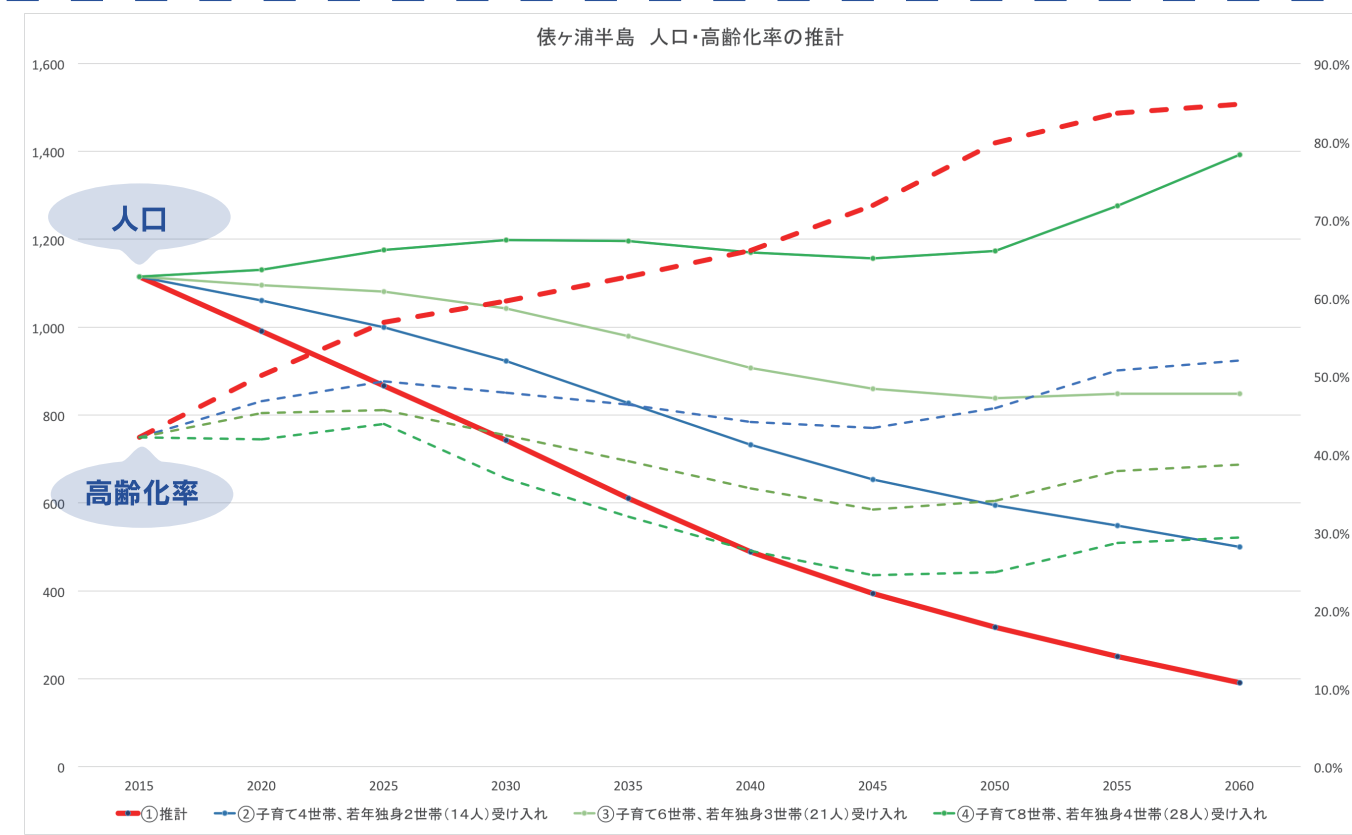
人口交流・定住・地域経済を生み出し、俵ヶ浦半島未来予想図（P6）の実現

【人口推計の条件】

- ・ コーホート変化率法による。
- ・ H22 および H27 の国勢調査人口データをもとに、つくも苑居住者（一部推計）を差し引いた数値を採用。
- ・ H22→H27年の人口変化率（コーホート変化率）および20-39歳の女性人口に対する0-4歳人口の割合を基準とし、その傾向が続くものと仮定。
- ・ 子育て世代1世帯は、0-4歳：30-34歳：35-39歳が1：1：1で男女比が1：1と仮定。
- ・ 若年独身1世帯は、20-24歳：25-29歳：30-34歳が1：1：1で男女比が1：1と仮定。

【グラフの見方】

- ・ 実線が人口を示し、左軸の数値と整合。
- ・ 破線が高齢化率（65歳以上人口割合）を示し、右側の数値と整合。



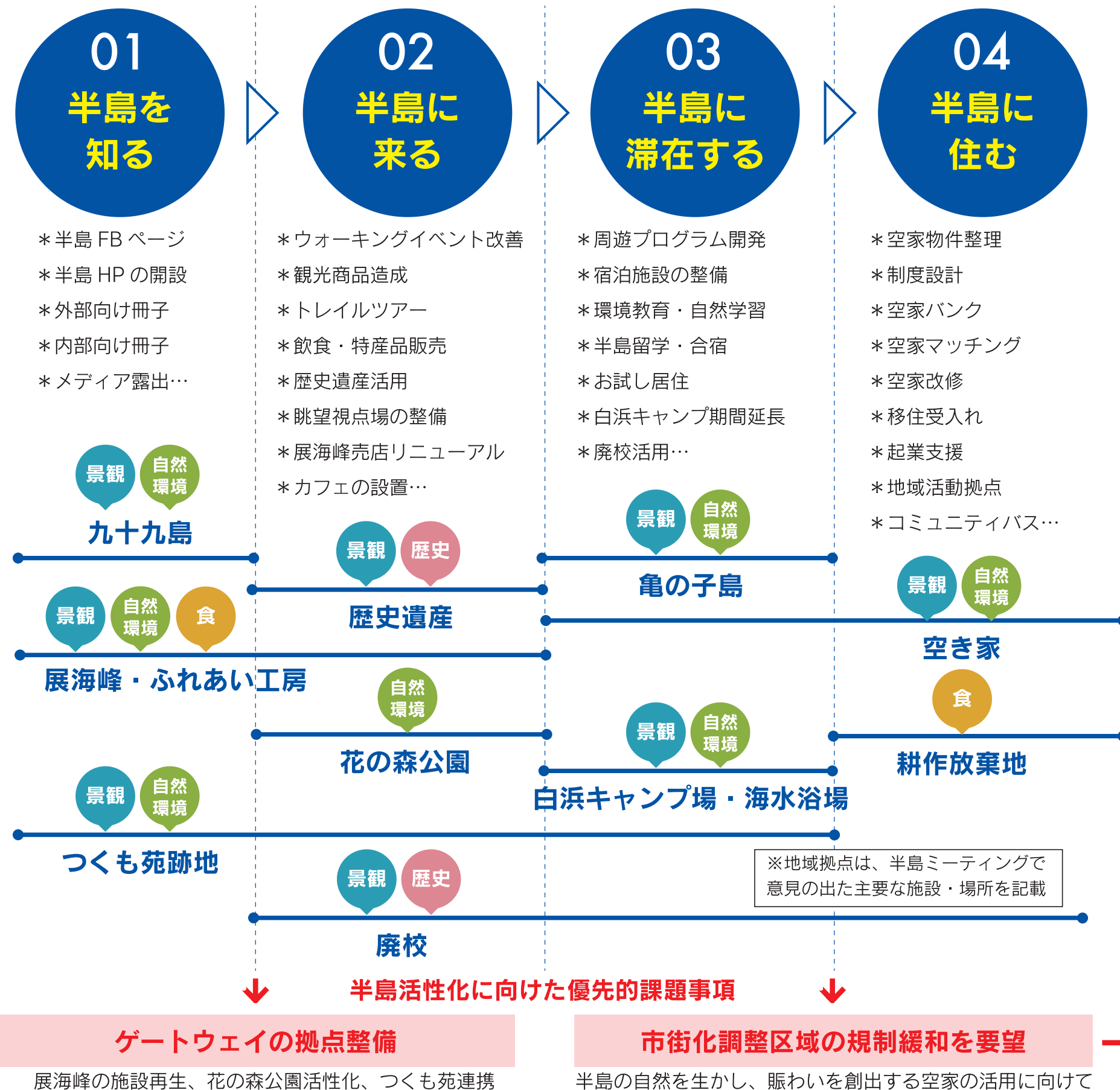
〈俵ヶ浦半島の40年後の目標〉

若年層を年間6～12世帯の抑制・受け入れによる500人～1,000人の人口維持 を行い、半島の豊かな景観や暮らしを持続

10年後の目標

目標を達成するために 作り上げたいフロー

3-4で整理した目標を具体的に実現するために、「半島を知る」→「半島に来る」→「半島に滞在する」→「半島に住む」のそれぞれの場面において、取り組みたいアイデアや活用すべき地域拠点を整理しました。地域住民が主体となり、外部サポーターやファンの連携を可能にする適切な推進体制の下、優先順位を考えながら事業を進めていくことが大切です。



優先順位を設定し、適切な推進体制で事業を実施することが必要

3年後の目標

俵ヶ浦半島の未来をつくるチーム俵の自立

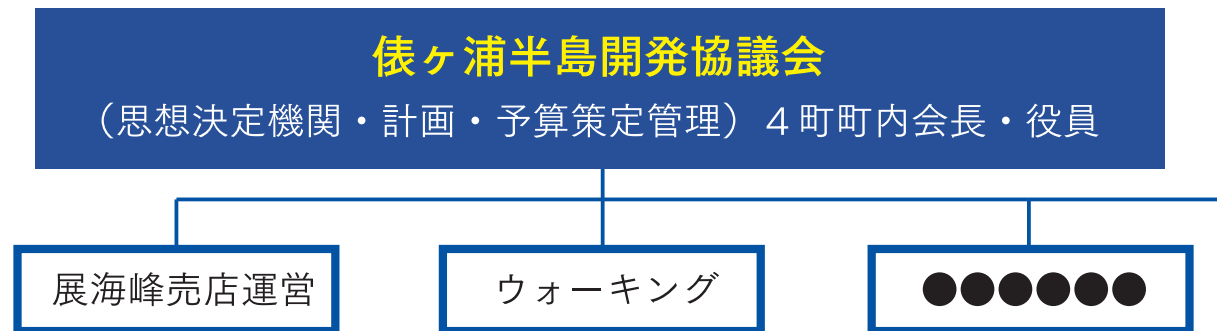
これまで俵ヶ浦半島の活性化に向けては、4町町内会長と役員で構成された「俵ヶ浦半島開発協議会」がまちづくりの推進役を担っていますが、人材不足によって負担が集中し、活動の広がりや資金調達、人材確保に悩まされていました。

未来計画の策定を契機として、人口の交流・定住・地域経済の創出を図ることで10年後、40年後の俵ヶ浦半島の未来を住民の手でつくることを目的とした「チーム俵」を結成。

「気軽に楽しく」をモットーに、事業の共感の輪、参加者のネットワークを広げ、オール俵ヶ浦半島による推進体制を構築します。また、外部との良好な関係によってヒト・モノ・カネを半島に呼び込み、半島内での循環サイクルを創出します。

将来的には、活動の自主財源を作って組織の自立化を図り、雇用・人材の確保、まちづくり事業への還元を行っていくことを目指します。

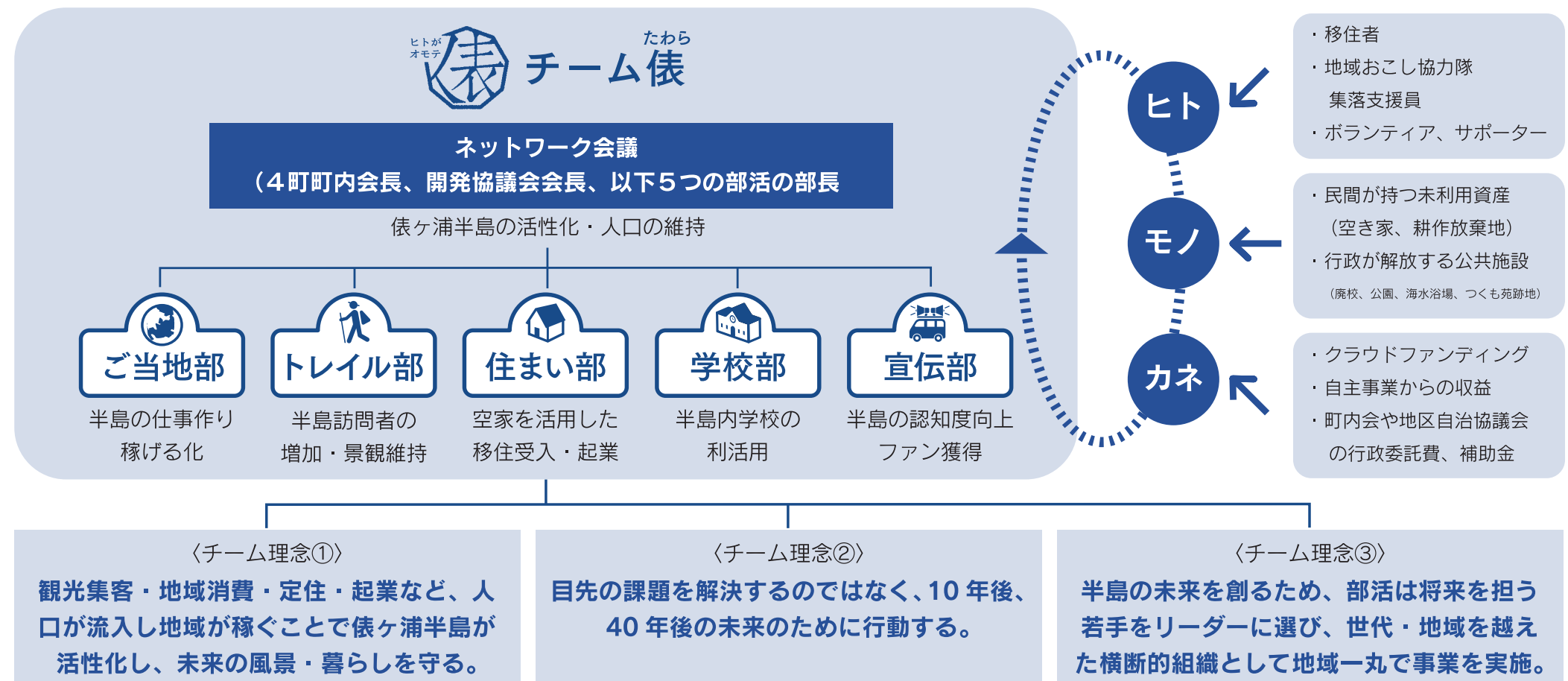
<現行体制>



任意団体、ほぼボランティアによる運営。開発協議会及び町内会各会長に、判断から実行手配までが集中し過大な負担。活動の目的意識、活動の広がり、人材確保が課題。

課題

<俵ヶ浦半島未来計画の推進体制>



俵ヶ浦半島の未来をつくるため、地域・年齢の枠を越えた横断的組織「チーム俵」を発足。「人口交流・定住・地域経済を生み出す」という目的を共有し共感の輪が広がることを期待。今後は、自主財源をつくり、適切な団体への移行を目指す。

展望

ネットワーク会議

俵ヶ浦半島の 活性化・人口の維持

- ◎チーム俵の意思決定・情報共有
- ◎事業・予算の管理
- ◎新事業の検討、など

(メンバー)

- ・ 4 町町内会長
- ・ 開発協議会会長
- ・ 5 部活動の部長

◎目的・目標

チーム俵の収益化・自立化（平成 31 年度）

◎事業計画

- ・ 人材の確保、組織の拡大
- ・ 関係機関との連携体制の構築
- ・ 当面3カ年の事業予算の確保
- ・ チーム俵の自立化に向けた収益・財源確保（自主事業、クラウドファンディング、行政委託費など）

◎事業スケジュール

- （平成 29 年度）
規約整備
- （平成 30 年度）
事業拡大（既存事業の絞り込み、新規事業創出）
- （平成 31 年度）
チーム俵の自立化

◎今後の課題

- ・ 俵ヶ浦半島開発協議会と町内会等の既存組織との役割分担、既存事業の取り込み・深化
- ・ チーム俵の規約の未整備
- ・ 法人化の検討
- ・ 指定管理の検討
- ・ 地域マネジメント体制の未整備
- ・ 公有財産の活用策検討（自主事業の実施）
公園・海水浴場など
- ・ 民有財産の活用策検討（自主事業の実施）
耕作放棄地など
- ・ 公益まちづくり事業の検討（コミュニティバスの導入、高齢者見守り・生きがいづくりなど）

ご当地部

俵ヶ浦半島の仕事作り 稼げる化

- ◎農水産物のブランド化
- ◎地域資源を活用した商品開発・販売
- ◎展海峰ふれあい工房の売場改善



◎目的・目標

《1年後》地域資源の商品化、《3年後》ふれあい工房の黒字化（年商 5,000 万円） 《5年後》つくも苑事業への地域参画

◎事業計画

《全般》

- ・ 商品数を増やす。常に商品がある状態にする（毎朝必ず野菜が集まるような仕組み）。
- ・ 季節、シーズンを問わず集客→商品以外の来る目的を作る。（冬に水仙を植える等）
- ・ 販売スペースの拡大、冷蔵庫の導入。
- ・ 購買意欲を掻立てる売り場づくり

《地域住民・出品者向け》

- ・ 生産者が商品を安定して卸せる体制づくり（組織化など）

- ・ 酒、日用品など、地域の人への買い物の不便さを解消する品揃え。→「来訪する理由」
- ・ 冷蔵庫の導入（生産者が半島外の店舗（柚木・重尾等）に産品を卸しているケース多数）

《来訪者向け》

- ・ 「ふれあい工房」の改名（何を売る店が明確に）
- ・ 看板の設置
- ・ 外から売り場、商品が見える設え（ガラス等）。
- ・ キャンプ用品の販売。接客を改善。
- ・ Facebook 等での宣伝、口コミ。

◎事業スケジュール

事業計画完成まで、毎月第 1,3 木曜日に開催。

◎今後の課題

《今後詰めていくべき課題》

- ・ 事業の計画づくり（何から着手するか）
- ・ ふれあい工房の売り子の人件費見直し
- ・ ふれあい工房の事務の棚卸し、共有化。
- ・ ふれあい工房の現在の運営者との調整。
- ・ ふれあい工房会員（出資者）事業計画承認

《事業実施にあたって考えられる課題》

- ・ 資金
- ・ 人（売場）
- ・ ノウハウ



俵ヶ浦半島訪問者の増加、景観維持

- ◎ウォーキングイベントの強化
- ◎トレイルルートの造成・観光集客
- ◎景観整備、拠点整備・活用、維持管理



◎目的・目標

《年 間》トレイルルート2コース/年。5年で10コース（菜の花、コスモスウォークで1コースずつお披露目）
 《5年後》菜の花・コスモスウォーク参加者（300人→600人）、収益化（参加料、ガイド料、土産物）

◎事業計画

《トレイルの維持管理》

- ・秋口から冬までの間に草刈り
- ・通常の各町単位の草刈りとスケジュールを共有し、外部ボランティア参加を促す。

《トレイルの整備》

◎現在のルートの質を高める取り組み

歩く人のための施設の充実、休憩所づくり、トイレ整備、季節の花の植樹

◎新しいコースの設定

様々な難易度のコースづくり（子供でも歩けるコース、走れるコース、クロスカントリー

コース、自転車コース）

《新コースの造成》

- ・小首砲台～高後崎灯台周辺の計画づくり
- ・つくも苑の造成と合わせた展海峰・つくも苑周辺の古道を利用した新ルート
- ・樹木の伐採による景観整備

《トレイルを利用したイベント》

大小のウォーキングイベントを充実化

《収益化》

- ・地域の人でガイドする。
- ・グッズを作って売る。

◎事業スケジュール

- ・年度始めに新しいルートを整備する優先順位、こういった整備をするか決める。
- ・コース造成（みんなで下見→コース決め→整備）→イベントでのお披露目→通常利用（年2回）

地域関係	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
アースデイ												
白浜海開き												
県道草刈り（全町）												
常時の草刈りとトレイル整備の連携・調整												
コスモスウォーク												
県道草刈り（全町）												
菜の花ウォーク（下船起）												
トレイル関係	年度計画づくり 将来計画の見直し		下見・コース決め	ボランティア呼びかけ （菜の花の種まき）	ボランティア呼びかけ （コスモスの種まき）	整備 （菜の花の種まき）		下見・コース決め	ボランティア呼びかけ	整備 （コスモスの種まき）		



空家を活用した移住受入・起業

- ◎空家物件、耕作放棄地の改修・活用
- ◎移住・定住の環境整備・受入れ
- ◎空家を活用した起業支援・ビジネス創出



◎目的・目標

《1年後》1町・1軒活用できる空家確保（計4軒）、モデルとして1軒を掃除・片付け・活用
 《3年後》6軒の空家を活用、《5年後》10軒の空家活用（移住者への賃貸・売買、住宅以外の活用など）

◎事業計画

《活用できる空き家の確保》

- ・空き家の改修
- ・空き家の清掃や家財道具の片づけ

《移住者の受け入れ》

- ・地域の担い手を増やす
- ・お試し居住など期間限定で滞在してもらい、地域を理解してもらって移住する仕組み

《耕作放棄地の活用》

- ・空家と耕作放棄地をセットに賃貸・売買
- ・農機具のシェア

《その他》

- ・行政と地域との協力体制の構築
- ・対象者を絞ったPR（自然好きな人、など）
- ・子育てしやすい環境の整備
- ・小学校にある図書を利用した放課後クラブ
- ・サブリース方式による稼げる物件・仲介業の検討

◎移住者を呼び込むステップアップ

- ①半島内の活用できる空家を探す（空家調査）
- ②期間限定で住んでもらう（お試し住宅整備）
- ③気に入ったら移住（移住先の紹介）

◎今後の課題（事業実施に向けての課題）

- ・市街化調整区域である。
- ・空家に残る家財道具の整理・清掃。
- ・ゴミを捨てるのもお金がかかる。
- ・片づけは一人ではできない。
- ・改修しなければ住めない建物も多い。
- ・シロアリ対策が必要な場合もあるだろう。
- ・相続人の確認（行政のサポートも必要）。
- ・車を持っていないと生活するには厳しい。
- ・移住者がたくさん来るとは考えにくい。実際に移住する人は限定されるだろう。
- ・財源確保策（空き家活用ビジネスの創出）



学校部

俵ヶ浦半島内の 学校の利活用

- ◎学校活用策の検討、利活用
- ◎学校の維持管理・運営
- ◎地域拠点・コミュニティづくり



◎目的・目標（指標）

①放課後教室の利用人数（全児童の70%）・利用者の範囲（4町すべて）、②グラウンドの利用人数・回数、③防災拠点の整備（計画の検討）、④学校活用の事例勉強会（年に1～4回開催）

◎事業計画

《来年度から進めるもの》

①放課後教室

下船越を除く3町の児童対象。場所は、野崎中体育館。主体は、育友会。16時～18時までの活動を計画中。

②グラウンド利用

場所は野崎中グラウンド。主体は、野崎町のグラウンドゴルフに参加する方々。

③防災（避難）拠点の整備

対象は4町を想定。

④学校活用の事例勉強会

内容は、学校の合宿所利用、選果場利用、つくも苑跡の事業をサポートする事務所利用、多用途で利用する際のマッチングの良い用途の組み合わせなど。

《将来考えられるもの》

- ・学校の合宿所利用
- ・選果場利用
- ・つくも苑跡・ふれあい工房の事業を支援する食品加工場など利用
- ・多用途で利用
- ・半島の仕事（企業誘致、オフィス活用など）

◎今後の課題（事業実施に向けての課題）

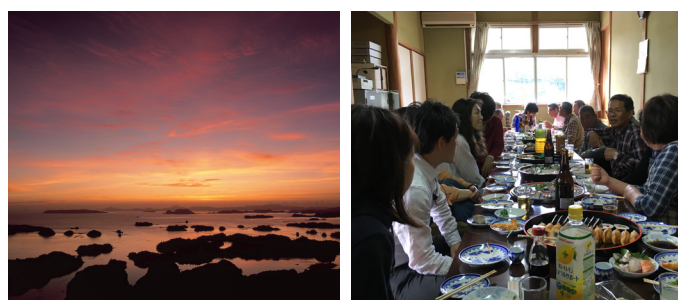
- ・当面の俵浦小、庵浦小のグラウンドの除草などの維持管理
- ・学校施設の維持管理のためのランニングコストの試算がない。学校活用の事業を考えるための参考になるはず。
- ・利活用にかかる行政との役割分担・連携



宣伝部

俵ヶ浦半島の認知度向上 ファンの獲得

- ◎地域内向け情報発信（半島TIMES）
- ◎地域外向け情報発信、管理・運営（冊子、SNS、ホームページ、など）



◎目的・目標（5年後）

来訪者が毎年増加 → Facebookの「いいね！」の数やHPのビジット数（ハウステンボスの半分を目指す）

◎事業計画・スケジュール

《1年目》ファンづくり

- ・FacebookやInstagram、Youtubeなど、お金をかけずに取り組めることから開始。
- ・景観が自慢なのでドローン映像も検討。
- ・半島に住む「人」が見える広報をしていく。
- ・来訪者が増えるとマナーの悪い人も地域に入ってくるなど、危惧する人もあるが、地域に住む人が見えることで軽減できる。
- ・活性化に取り組んでいる地域の動きを伝えるなど、場合によっては地域の課題やマイナスポイントを見せてもよい。

《2年目》来訪者を増やす、HPをつくる

- ・地域の良さを楽しんでもらうために必要な情報、来訪者に必要な情報を整備する。
- ・Facebookは美しい景観を見せるもの、ホームページは楽しむためのアクセス情報、拠点の情報、お土産情報などを記載し、役割分担を明確にする。

《3年目》住民が情報発信する体制づくり

住民が参加して外部向けの情報発信ができる体制を整える。

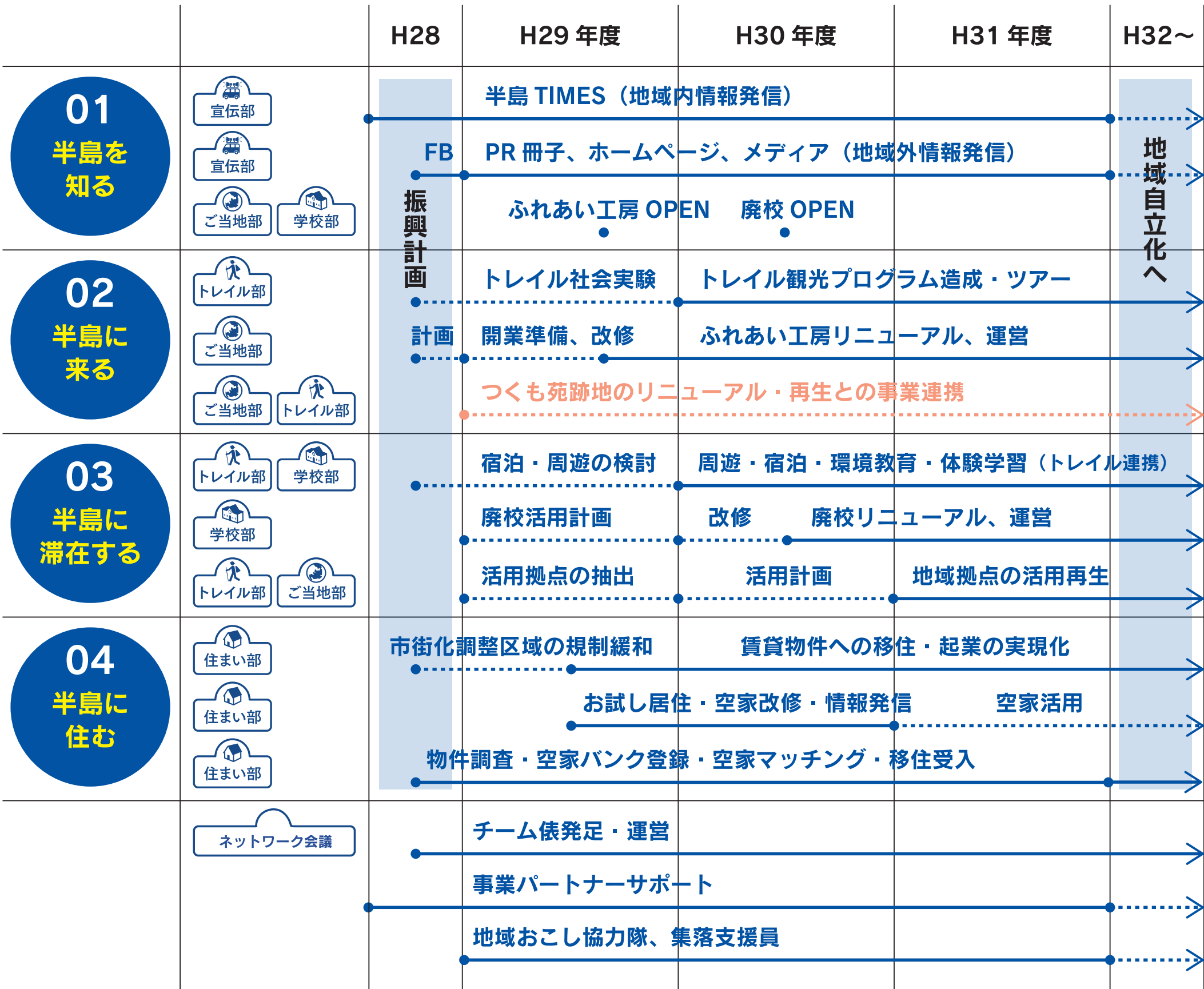
◎宣伝の視点・今後の課題

- ・伝えていきたい基本は「俵ヶ浦半島トレイル」地域の自然、景観、歴史、暮らしを伝える
- ・地域内・地域外に発信する2つの役割
- ・地域内には「半島TIMES」を継続・定着化
- ・紙媒体とWEB・SNSの併用
- ・宣伝するために、半島のことや他の部活のことを知っておく。
- ・住民の多くが発信できるようになるために、編集やWEB活用などの勉強会を開催する。
- ・つくも苑跡の観光公園など、タイミングを逃さずに半島全体の情報発信をする。

チーム俵が自立するまでの事業スケジュール

地域が主役・地域発の取り組みを実現化し、俵ヶ浦半島の目標を叶えるための事業を継続していくためには、地域が一丸となり、楽しみながら取り組みを進めることが大切です。

また、H29 年度～H31 年度の3 年間は、地元まちづくりの推進組織「チーム俵」の各部活が中心となりつつ、現在の住民だけでは足りない力を様々な知見・実績を持つ大学や専門家、行政の伴走で補ってもらい、地域の声と市場ニーズが合わさった効果的な事業展開を可能にし、地域の自立を目指します。



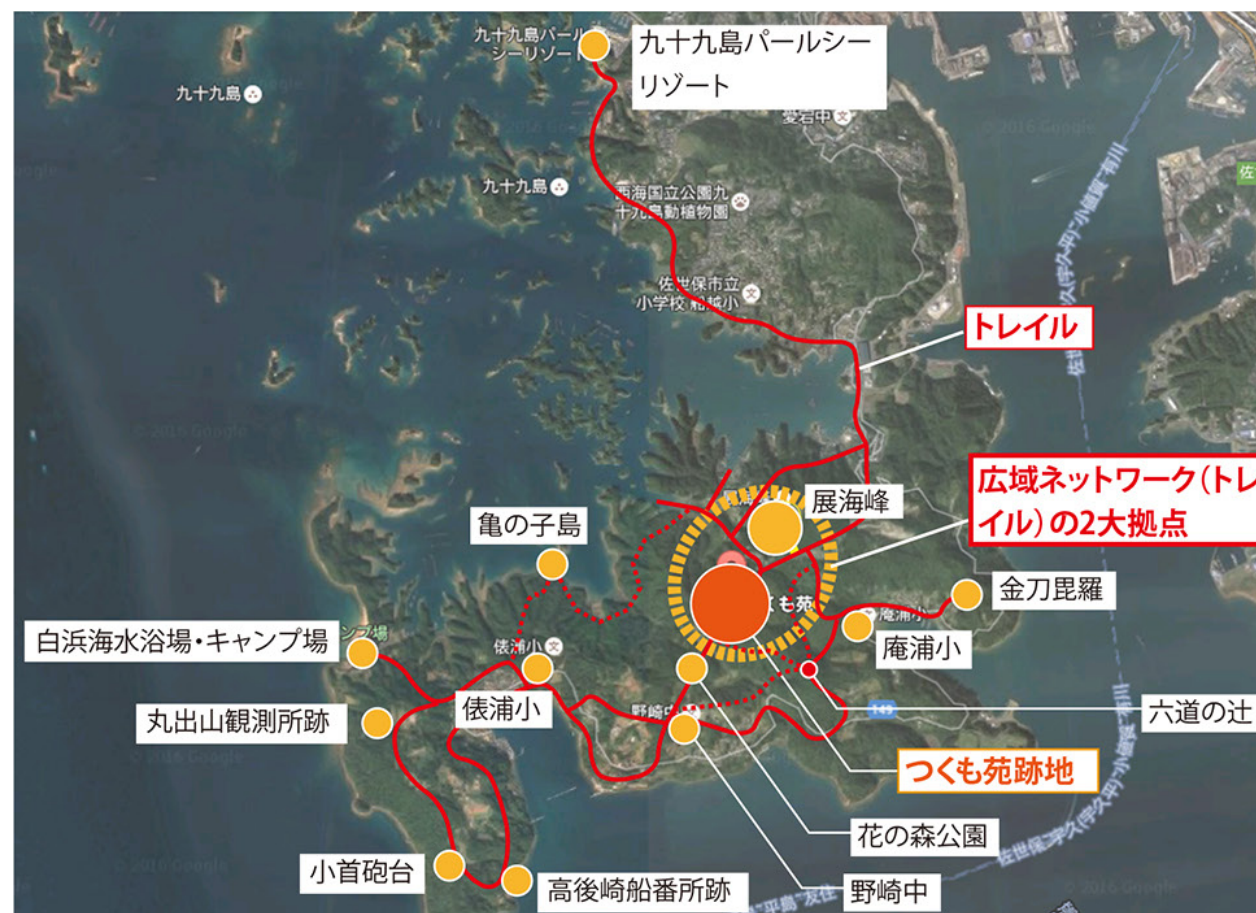
＊平成 29 年度以降の事業は、地域や関係機関と役割分担を含め十分協議の上で決定する。



俵ヶ浦半島の玄関口の一体的な整備

俵ヶ浦半島のゲートウェイ拠点整備は、半島への集客・消費・移住を実現するための大きな布石となります。年間約15万人の来訪者が訪れる展海峰に隣接し、地域が自ら出資し運営を行っているふれあい工房は、住民と市場のニーズの接点であり、住民主体でリニューアルに取り組みます。

また、現在開発構想中のつくも苑跡地の整備・活用は半島活性化の命運を分けます。ゲートウェイの整備にあたっては、振興計画の目標である『豊かな生活環境を磨き、人に来てもらい、住んでもらう』ことを念頭に、計画との整合性、地元合意、ふれあい工房との相互連携を図ることが大切です。



俵ヶ浦半島・トレイルコースのゲートウェイと位置付けられる展海峰とつくも苑



「つくも苑」跡地の自然景観を生かした観光公園化に向けて

野崎町に位置する「つくも苑」跡地について、工業団地造成の計画から、これまでの半島ミーティングなど半島振興計画づくりの議論を尊重した活用へと方針転換ができないか佐世保市へ相談をしてきました。

そして、佐世保市から示された右図の観光公園整備案（イメージ）について、私たちも同意し、長崎県に対しても正式に申し入れを行いました。つくも苑開発以前に元々あった眺望の開けた丘陵地形の再生により、九十九島や、港を行き交う船、針尾無線塔等の大パノラマを望める多目的利用の場の創出が今回の整備案のポイントとなっています。

また、つくも苑跡地は、俵ヶ浦半島の玄関口に位置し、展海峰や花の森公園との一体的な観光活用が実現すれば、半島の観光的魅力は一気に高まります。つくも苑跡地活用は、半島の将来を占う事業であることから、今後の期待される正式な方針転換後も、地元として振興計画やこれから取り組む活性化事業と連携を図り、関わり続けていくことが大切です。



“ヒトがオモテ” の倭ヶ浦半島未来計画

発行年月／2017 年 3 月

発 行／倭ヶ浦半島開発協議会（会長 尾崎 嘉弘）

企画編集／九州大学景観研究室（樋口 明彦 准教授、榎本 碧 助教）

株式会社ルーツアンドパートナーズ（代表取締役 佐藤 直之）

TMTY（代表 富田 柚香子）

竹林知樹スタジオ（代表 竹林 知樹）

協 力／佐世保市政策経営課・都市政策課・観光課・社会教育課

公益財団法人 佐世保観光コンベンション協会

撮影協力／渋谷 香奈、相良 利博